

2021年5月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2021年4月 マンスリー レポート

集計企業数 **50** 社

① 売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	60,556,929 万円	100.0%	97.1% (97.0%)	59,198,361 万円	96.5% (96.3%)
食 料 品	52,625,201 万円	86.9% (86.6%)	94.4% (96.5%)	51,406,266 万円	93.6% (95.7%)
農 産	7,770,890 万円	12.8% (13.0%)	91.6% (99.1%)	7,592,851 万円	90.8% (98.2%)
水 産	4,856,283 万円	8.0% (8.2%)	98.7% (100.8%)	4,741,894 万円	97.7% (99.5%)
畜 産	6,707,918 万円	11.1% (10.9%)	90.5% (95.4%)	6,549,508 万円	89.6% (94.7%)
惣 菜	6,246,474 万円	10.3% (10.2%)	110.3% (104.8%)	6,084,631 万円	108.9% (103.5%)
日配食品	11,917,197 万円	19.7% (19.4%)	93.0% (95.5%)	11,644,923 万円	92.2% (94.7%)
加工食品	15,126,440 万円	25.0% (24.8%)	91.9% (92.2%)	14,792,460 万円	91.3% (91.5%)
生活関連	3,598,021 万円	5.9% (5.8%)	98.5% (93.1%)	3,519,066 万円	98.2% (92.7%)
衣 料 品	1,322,958 万円	2.2% (2.1%)	152.3% (105.8%)	1,302,649 万円	161.6% (106.9%)
そ の 他	3,010,749 万円	5.0% (5.5%)	144.0% (106.2%)	2,970,381 万円	146.0% (107.0%)

② 数 値

全店総売上高	60,556,929 万円	店舗数	4,996 店舗
総売場面積	9,977,638.2 m ²	総従業員数	273,251 人
店舗平均月商	12,121.1 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,038.7円 (96.6%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (6.2万円)	平均売場面積	1,997.1 m ²
月間坪売上(前月)	20.1 万円 (20.5万円)	パート比率(前月)	76.4% (76.3%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 4月の天候概要について、気温は全国的に高かった。降水量は、北日本でかなり多く、沖縄・奄美ではかなり少なかった。日照時間は全国的に多かった
- ・ 生鮮物の相場状況について、農産物では野菜全体が安値で推移した中、トマト、きゅうり、レタスなどのサラダ野菜やキャベツが安値で推移、じゃがいも、玉ねぎ、にんじんなどの土物類が高値で推移した。果物は、全体では国産果実が安値で推移した中、りんごといちごが安値で推移、雑かん類が高値で推移した。水産物は、卸売市場への総入荷量は前年同月より増加し、卸売価格は強含みとなった。畜産物では国産の牛肉と鶏肉が高値となり、豚肉が安値となった
- ・ 土・日・祝日の合計は9日で、前年同月と変わらなかった
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連について、4月は国内の新規感染者数は4桁を切ることがなく、5日から宮城県・大阪府・兵庫県にまん延防止等重点措置が適用、12日からは東京都・京都府・沖縄県、20日からは埼玉県・千葉県・神奈川県・愛知県に適用された。25日からは3回目の緊急事態宣言が東京都・京都府・大阪府・兵庫県に出され、愛媛県にはまん延防止等重点措置が適用された。商品動向全体では、前年初めての緊急事態宣言発令時の様な買いだめは無く、特需の反動減についてのコメントが多く見られた。その他、県外への移動自粛により産地名産品の動きが良かったとのコメントも見受けられた

《 商品動向 》

○農産

- ・ 前年からの反動と相場安の影響により、キャベツや白菜が不調であった
- ・ スナックエンドウなどの豆類や筍が好調であった
- ・ 気温環境により、薬味野菜の動きが良かった
- ・ 国産果物ではスイカの動きが良く、輸入果実ではパイナップルが好調であった
- ・ いちごやりんご、柑きつ類は、好調・不調の評価が分かれた

○水産

- ・ 塩干物や冷凍魚、魚卵、海藻類が前年との比較ではマイナスであった
- ・ マグロやカツオ、えびなどの刺身類や、ウナギ、水産部門で取り扱いの寿司が好調であった

○畜産

- ・ 牛肉・豚肉・鶏肉・挽肉の精肉全般が前年との比較ではマイナスとなり、特に豚肉と鶏肉の反動が大きかった

○惣菜

- ・ 弁当や寿司などの米飯類や、揚げ物類が好調であった
- ・ 家飲み向けのおつまみ類の動きが良かった
- ・ 気温環境により、涼味麺や冷惣菜が好調であった
- ・ 旬の食材を使用した商品や、新商品の動きが良かった

○日配食品

- ・ 納豆、冷凍食品、チルド麺などに大きな反動減がみられた
- ・ 気温環境により、アイスクリームが好調であった
- ・ 佃煮とデザート類の動きが良かった

○加工食品

- ・ パスタやインスタントラーメンなどの乾麺類、製菓材料に大きな反動減がみられたほか、粉物類や缶詰・瓶詰、米、駄菓子やチョコレートなどが反動を受けた
- ・ 気温環境と家飲み需要により、ビールと飲料が好調であった